

姫路市医師会報

○編集後記

No. 312 平成 16 年 5 月 1 日発行

このたび、理事を仰せつかりました、新米理事です。会員の先生方、よろしくお願いたします。広報委員会が担当となりまして、他の役員の先生方といっしょに写真を撮っていただいたことを除いては、この医師会報の発行が初めての仕事となりました。今のところ他の役員の先生方や前任の理事の先生から教えていただき、事なきを得ていますが、これから右往左往することになると思います。不安なままの船出であります。

初めて医師会報の表表紙から裏表紙まで繰り返し目を通しました。医師会に入会して 10 年ほどになりますが初めてのことでした。たいていは、知っている先生の記事や、少し目にとまったところを読む程度でした。この機会に過去の号も何冊か読んでみました。

今号は、各委員会の諮問事項に対する答申書が多く載っております。データもたくさんであり、少々読み応えはありますが、じっくり読むことで医師会での活動内容の一部が理解できるようです。そして、今の問題点、今後検討すべきことがらなどについても判ってくるようです。新米理事の発言としては早すぎるかもしれませんが、未来へ向けてのことなどについても、おぼろげながら考えていく手がかりがあるような気がします。また、このように多くの委員会があり、各委員会に多数の先生方が参加して議論をしていることを知らない会員の先生方もおられるのではないかと思います。実は私もその一人でありまして、こういう風にして医師会では物事が検討されているのだと判りました。

毎号の「こーひーぶれいく」のコーナーには多くの会員の先生方が参加されています。普段は仕事上のお付き合いしかない先生方の普段の様子が垣間見えてまいります。いろいろな経験や趣味をお持ちの先生方がいらっしゃるの判ったり、偉くて近寄りがたいと感じていた先生も私どもと同じようなことを考えておられるのだと親しみを感じさせていただいたりします。学術の欄では、日常の診療の中での症例を掘り下げて報告されていることもあり、学会発表から遠のいている自分自身を反省いたしております。また、姫路市内の身近な病院で、投稿されているような専門性の高い医療がなされていることにも関心させられます。その他に、多くの文章、報告が載せられています。このようにいろいろな情報が盛りだくさんにある医師会報ですので、かつての私のような読者であれば非常にもったいないことであると思っております。

今後も医師会報を充実したものにしていきたいと考えております。前任の理

事の先生からは「いろいろなことを考えて、独自色をだしていけばよろしいですよ」と温かいプレッシャーをかけていただいております。いろいろ考えてみますのですが、まずは先輩の先生方の行ってこられたことを生かして、このまま継続させていただくのがやっとなです。その後、委員や会員の先生方と相談しながら、新しい企画を考えていければよいと思っております。市民の皆様に向けての情報発信も良いのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

編集後記というよりも医師会報の読后感想文とご挨拶を書かせていただきました。これからも、会員の先生方の御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。